特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報

RUMER



Vol.2



RUNNER とは??

この会報のタイトル "RUNNER" には3つの願いが込められています。

- ☆自然環境保全センターの長年のアイドルであるらんちゃんがいつまでも元気でいられるように
- ☆救護の会が RUNNER のようにどんな困難も乗り越えて進んでいけるように
- ☆動物たちが元気に大空に飛び立ち、走り続けていけるように



第二走者:ニホンリス

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

ちいさな忍者参上!

まだ寒さの厳しい2月25日、相模湖のほとりのキャンプ場で、ニホンリスの幼獣が保護されました。前日の強風で巣から落ちたらしく、冷たくなって地面にうずくまっていたそうです。ニホンリスの保護は保全センターでも過去数例しかなく、しかもこの時期に幼獣が保護されるのは、稀なことだということです。元気になると、まるで忍者のようにすばしっこく行動していました。



2008年4月6日 クルミがお気に入り

保護個体データ

受付番号:080070

種類:ニホンリス(幼獣♂)

保護年月日:2008年2月25日

保護場所:相模原市相模湖町 キャンプ場付近 状態:元気なし、外傷は特になし(体重:77.0g)

転帰:2008年5月3日 野生復帰



2008年2月28日 授乳時以外ほとんど寝ている

すくすく成長記

授乳期

保護された時は歯が生えていて、目も開いていました がまだ幼く、頻繁にミルクをあげなければなりませんで

した。なので、初め のうちは保全センタ 一職員が家につれ て帰り、世話をしまし た。初めから抵抗な くミルクを飲み、体重 も増えていきました。



2008年2月26日 注射器から授乳

離乳期

2月29日にはイチゴを食べ始めました。そして徐々に、ミカンやヒマワリの種、ドングリなど様々なものを食べるようになりました。木に登るのは上手ですがよく落ちてしまい、まだまだ慣れていないようです。保全センター職員の服の間にヒマワリの種を隠したり、トレイを

かじるなどリスら しい行動をする一 方、しっぽを横に 振る不思議な行 動をみせることも ありました。



2008年3月1日 イチゴをかじる

成長記録

2/25 77.0g 保護

2/29 80.4g イチゴを食べる 3/04 95.0g ドングリは割れず

3/07 92.0g ヒマワリの種を割って食べる

3/12 113.0g ドングリを割って食べる

3/13 114.6g しっぽを横に振る

3/14 118.6g しっぽが平らになる

3/16 133.9g ツバキの蕾を食べる

3/19 141.5g 桜の花をかじる

4/10 210.0g オニグルミは割れず

4/25 218.0g カラスが近づくと警戒の声を発する

5/02 220.9g 翌日 野生復帰

O図鑑O_{NO}

・ニホンリス Sciurus lis

齧歯目リス科

日本固有種。ホンドリスとも言う。低山帯を中心に平地から亜高山帯までの森林に生息する。主に樹上生活で昼行性。朝と夕方活動的になる。春から秋に樹木の芽や花、草木の花や草、茎、種子、果実、キノコ、昆虫などを食べる。他にも秋にはオニグルミやナラ、カシなどのドングリを食べ、食べ物の少ない冬に備えてこれらを地面に埋める(貯食)。春先は貯食したものを食べている。

樹上に小枝や樹皮で球形の巣をいくつか作りときどき引越しをしながら、繁殖や夜寝るときに使う。 $2\sim6$ 月の間に $1\sim2$ 回繁殖する。妊娠期間は $3.9\sim4.0$ 日。産子数は $3\sim6$ 。タカ類やテン、キツネなどが天敵である。九州では絶滅が心配され、中国地方でもほとんど見られなくなった。

*参考:・小宮輝之『フィールドベスト図鑑 12 日本の哺乳類』 (株式会社 学習研究社、2003)

・今泉忠明『世界絶滅危機動物図鑑① 日本の哺 乳類』(株式会社 学習研究社、1997)

成長期

時々様子を見るたびにまた変わったなと思うほど、二 ホンリスの成長は著しいものでした。室内に放すと色々 な所を駆け回り、時には人間も駆け上るほど活動的で、 それが木に登る練習にもなっているようです。

3月上旬には、枝の上で毛づくろいをする度に落ちそうになったり、実際に落ちたりと見ていてハラハラしましたが、4月上旬には行動スピードも上がり、危なげない樹上生活を披露していました。行動だけでなく食事についても、成長が見られます。4月10日にはうまく割れなかったオニグルミも、わずか2日後には上手に割れるようになりました。

下の写真はニホンリスが割った、オニグルミです。



2008年4月10日 やみくもに齧って食べる



2008年4月12日 合わせ目に沿って齧り始めた

リハビリ期

4月6日、野外ケージに離している時に、自ら外へ出て行って以来、本格的に野生復帰に向けてリハビリが始まりました。4月9日には、室内ケージから野外フライングケージ(山田ハウス)に出すようになりました。それと同時に、ケージ外でもリハビリを行いました。このリハビリは、自然の中でニホンリスを自由に行動させるというもので、脱走覚悟で人が見張りながら一日二時間ぐらい行いました。徐々に自分から遠くに行くようになり、様々な木の新芽を木の上で食べるなど、順調に野生復帰の準備が出来てきました。

そして5月3日、ボランティアが餌をあげようと山田ハウスを開けたその時、ニホンリスが飛び出して行ってしまったのです。木を登り降りし近くを走り回った後、あっ

という間に林の奥に消えて しまいました。それが別れ の瞬間でした。たくましく成 長したニホンリス、無事に 自然界で生きていることを 祈っています。



2008年5月3日 別れの瞬間



川鵜 Great Cormorant (*Phalacrocorax carbo*) ペリカン目ウ科

カワウってどんな鳥??

まーいっつも保全センターに来るとみなさん見ますよね?ご存知のように、カワウは黒い鳥です。 ただ黒いだけじゃありませんよ!実はカワウの背中は茶色も混ざっているし、目はとっても綺麗なエ メラルドグリーンをしているんです。しかもペリカンの仲間…。水かきの形がペリカンと一緒です。

そして、保全センターに通うみなさんが目にするカワウといえば、グェーグェーと鳴きながら手に 魚を持つ自分に突っ込んでくる恐ろしい2羽と言う印象かもしれません。でも実は自然界ではあまり 鳴かないらしいです。保全センターに来るからこそ聞ける貴重な鳴き声だったんですね~。

また、普通の鳥には腰あたりに尾脂腺というものがあって、そこから出てくる油を体に塗って水を はじく仕組みになってますが、カワウには尾脂腺がありません。そのため、狩りをした後は翼を広げ て羽を乾かしてます。ちなみに舌もほとんどありません。

センターのカワウ紹介



070074 (成鳥、♂)

保護年月日:2007年4月12日

保護場所: 平塚市四ノ宮

衝突でしょうか、右翼骨折していました。

074は019と一緒に仲良く元気に暮らしていましたが、2008年 3月28日に息をひきとりました。

解剖した結果、皮下組織の充血などはみられましたが、これが原因だ! と思えるものは見つかりませんでした。寿命でしょうか?

「思えばこの日の朝は少し元気がなかったような気も・・・」(ボランティアさん談)



070019(若鳥、性別不明)

保護年月日:2007年1月27日

保護場所:平塚市小鍋島

用水路で泳いでいたそうですが、どうやってつかま

えたんでしょう?

右翼を骨折していて、手術で断翼したそうです。手術されても074がいなくてもFC3でアオサギと暮らしていますが、最近元気がなくて心配です。しかもこいつ、カワウのくせにニジマスよりアジやサ

バのほうが好きなんです。

新入りくん 080175 (若鳥、性別不明)

保護年月日:2008年5月16日 保護場所:平塚市河内

今年の5月、074がいなくなってから意気消沈していた019に嬉しい出来事が!それは新入りのカワウとの同居です。この新入りくん、目立った外傷はなかったのですが、保全センターに来たときは体重1200gと痩せていて、元気もありませんでした。日が経つにつれ少しずつ元気になって、部屋もA室からFC3に移り019と仲良く御飯を食べていましたが、この子は五体満足のため、リハビリの池にて6月7日に放野されました。019はなんだかまた寂しそうですが、新入りくん、元気でやっているといいですね!!



繁殖期のカワウ

カワウは繁殖期になると頭と足の付け根が 白くなります。ところが保全センターにいる カワウは頭が白くなりません。でもO74の カワウさんの写真、じ~っくり見れば分かる かな?足の付け根が白くなってるんです。

コロニーはいつも寝床にしている場所から 適当なところを選んで形成し、繁殖を行いま す。人間と同じく一夫一妻制で、特に春先と

秋に枯れ枝などを利用して樹上や鉄塔などに巣を作ります。カワウはもともと冬鳥で、繁殖のために 春は暖かい地域へ移動していたそうですが、最近は留鳥となり同じ地域で繁殖をしています。卵は約1 ヶ月程度で孵化し、40-50 日で巣立ちます。0 7 4 の羽も全体的に若鳥は成鳥と比べて茶色っぽいです ね。 (写真) http://userdisk.webry.biglobe.ne.jp/008/741/09/1/116775062215821077.jpg



〈カワウ〉



〈ウミウ〉

カワウとウミウの違い

この2種類のウ、びみょ~に顔が違うんです。くちばしの付け根の形 や白い部分の面積に注目してみてください。カワウより、ウミウのほ うが口角が尖って見えます。また、背中の色はカワウのほうが茶色っ ぽく、ウミウのほうが黒っぽく見えます。

遠目だと見えにくいかもしれませんが、是非保全センターに来たとき はカワウを間近で見てみてください!!

ちなみに鵜飼いのウは昔はカワウを使っていたそうですが、今はより 多くの魚が獲れるということで、ウミウを使っています。

(写直)

http://members15.tsukaeru.net/iwaki_bird/_mizu/kawau.htm#

自然界でのカワウの生活

餌となるのはほとんど魚類ですが、魚の種類は選ばないようです。O19のようにカワウなのに海水魚も美味しそうに食べます。 保全センターでは1羽につきー日 200 グラム以上を目安にニジマス、サバなどの餌を与えていますが、自然界では1羽で1日500グラムの魚を食べると言われます。潜る深さはなんと水深10mにも達し、1分は息継ぎなしで大丈夫だそうです。魚に夢中で呼吸忘れそうですね。カワウは群れで溜まる場所をいくつか持っており、そこで休息と睡眠をとり、夜明けには採餌のために餌場に向かうそうです。だから保全センターのカワウはいつもがっついているのかな?

カワウの歴史

カワウについての記述は江戸時代からあったそうですが、そのときからずっと人の近くでのんびり生活していたようです。1940年代になってもやっぱり全国各地に分布していました。

しかし・・・

1960年代にダイオキシンやDDTなどの有害物質の汚染で生息数減少してきて・・・

1970年代は数が激減!!関東で最大だった 千葉県大巌寺のコロニーが消失し,残ったコロニーは愛知県鵜の山と大分県沖黒島,それに上野動物園の飼育個体に由来するコロニーのみとなり, 1950年代半ばには関東地方だけで約7,000羽生息していたカワウが,1971年には全国で総数3,000羽以下に減少!絶滅の危機にまで瀕してしまいました。

それでもカワウはめげません!!ちょっとずつ 個体数を増やしていって、1990年代には見事 に回復!しかし、それと同時に糞尿による水質・ 土壌汚染や漁業被害をもたらしました。

カワウは嫌われ者?

もともとカワウは神奈川ではそんな多い鳥ではなかったようです。でも、最近は数が増えてきて、神奈川のほぼ全域でカワウを見るようになったと聞きます。カワウの糞はすぐには溶けにくいけど、長い目で見ればとっても良い肥料。カワウが狩りしてるということは、そこには魚がたくさんいるということ。ただ害鳥として駆除するのではなく、きっと共存できる方法があると思います。これからはこういった動物達とどうやって共存していくかも、私達が考えなくてはいけない重大な課題の一つとなりますね。

参考HP

http://blue-atlas.at.webry.info/

http://ja.wikipedia.org/wiki/

http://www.agri.pref.kanagawa.jp/suisoken/n
aisui/

http://www.env.go.jp/nature/report/h17-03/c
hpt2.pdf



The walk







シロエリオオハムコアホウドリ

来ちゃい ました!!

~ミズナギドリ大量漂着~

号外

号外なんです。

「なんか黒い鳥がいっぱい海岸に死んでる んですけど…」

5月20日、保全センターにこんな電話が 沢山寄せられました。カラス?鳥インフル エンザのせい?海岸の鳥のへい死体が神奈 川県の住民を一気に不安にさせました。

保全センターに次々と運ばれたのは…

ハシボソミズナギドリ

どうやら渡りの季節にちょうどできた低気 圧がもたらした大雨と強風のせいで、まだ 体力のないハシボソミズナギドリたちが大 量に死んで湘南海岸に打ち上げられたみた いでした。

最終的に湘南海岸に打ち上げられた死骸の 数はなんと2千羽強。そのうちの約80羽 が保全センターに運ばれてきました。

小鳥部屋が一気にミズナギドリの段ボール で埋めつくされ、職員さんやボランティア さんが一生懸命救護にあたりました。

残念ながら運ばれてきたほとんどのミズナギドリが死んでしまいましたが、そのうち11羽を23日に放野しました。

同じ理由でものすごくレアなコアホウドリが2羽と、この事件とは関係ないですが、 これまたレアなシロエリオオハムも同じ時期に保全センターに来ました!

詳細は次の号で!お楽しみに☆



今回のらんちゃん便りは…

らんちゃんは、保護されて5年になる救護の会の アイドル的タヌキです。今回は、自力でご飯が食べ られるようになってからのらんちゃんのお話です。



ケージの中で寝ているらんちゃん

らんちゃんのリハビリ生活

今では、ご飯を自力で食べられるようになり、寝返りをうてるようになったらんちゃんですが、運ばれてきた当時は、全く動くことができず、寝返りをうてるような状態ではありませんでした。

そこでほとんど毎日、センターの職員さんにより、10分間のリハビリが行われました。そのリハビリとは、らんちゃんの足を持って、屈伸させるように動かす、というものでしたが、らんちゃんは特に嫌がる様子もなくおとなしくやらせていたそうです。そんなセンター職員さん達の努力の甲斐あってか、少しずつ動けるようになり、1ヶ月後には寝返りがうてるようになったのです。

寝返りがうてないと寝ダコができてしまうため、 人の手によって寝返りさせてあげることが必要です が、センターの職員さんもボランティアさんも、ら んちゃんにつきっきりでいることはできません。「寝 返りがうてる」ということは、寝ダコができにくく なり、らんちゃんが生きていくためにも重要なこと です。 最初はゲージを上手く利用して寝返りをうっていたのですが、今はゲージを利用しなくても寝返りをしています。さらに、若いころは、後ろ足は動かせないけ

れど、前足だけ立てた状態で座ることもできました。 でも残念ながら、今はおばあちゃんになって、前足 の筋肉も衰えてしまったため、できなくなってしま ったようです。

らんちゃんが立った?

しかし、らんちゃんの快進撃は寝返りがうてるようになったところまでで、リハビリを続けても立って歩くことはできないままでした。でも、そんならんちゃんに「元気よく歩きまわって欲しい!」というみんなの想いから、車いすが試みられたことがありました。後ろ足を車いすに乗せて、前足だけでふんばって歩いてもらおう、というのです。早速車いすを作り、らんちゃんに試してもらいました…がしかし、かろうじて

立つことはできたものの、歩くことはできませんでした。

らんちゃんは前足を動かすだけならできますが、 関節が曲げられないためにつっぱっていて、さらに 少し斜めになっています。そのため、立ったとして も斜めになって、体重を両前足に均等にかけられず にバランスをくずしてしまうのです。こうして、ら んちゃんの車いす計画は断念せざるをえませんで した。(センターには、その時の車いすがまだ大切 にしまわれています。)

次回最終回は…

比較的最近のらんちゃんを紹介します。

山下の突撃レポート!!

スキルアップ勉強会

野生動物救護の会では、2008年1月から救護に関する「スキルアップ勉強会」を月に1回(計6回)、第3土曜日に自然環境保全センターにて実施しました。勉強会の内容は傷病鳥獣の受付の仕方や保定、差し餌、餌作りなどで、実践に即した技術が身に付けられます。講師は自然環境保全センターの加藤千晴先生です。

今回の突レポは終了した6つのスキルアップ勉強 会の内、第1回~第3回について報告します。また、 その時、参加者に記入していただいたアンケートも 一部紹介します。

■第1回スキルアップ勉強会

【内容:受付の仕方】

受付の仕方では、保護者・受付者の2グループに 分かれ、剥製を使ってのロールプレイングでした。

実演の形式は、保護した人からの電話を受けると ころから始まり、保護状況を聞いたり、傷病鳥獣保 護記録に記入する、などを実習しました。

保護状況からタヌキと判断したらアライグマだったり、コサギと思ったら実はアマサギだったりと、 受付者が思っていた動物とは違っていて、少し戸惑 う様子も見られました。

傷病鳥獣を保護したという連絡がきた場合、その動物が何の種類か、ケガの状態はどうかなどの保護 状況を細かく聞くことは、その動物を正しく保護する上でとても大事なことだと再認識しました。

センターにボランティアで来ている時でも、受付 が出来る機会が少ないので、実践形式の講義はとて もよい勉強になりました。

≪アンケート≫

*実践形式であったため実際にどう対応すればいいのかが具体的に分かり勉強になりました。

■第2回スキルアップ勉強会

【内容:保定の仕方、ヒナ・幼獣の見分け方】

保定の仕方では、生きたヒョコ、カラス、ドバトを用いて実習しました。また、哺乳類代表として救護の会のアイドル、タヌキのらんちゃんにも協力してもらいました。

スズメ・ツバメ・ムクドリ・ヒヨドリなどのヒナ を見分けるポイント(口の中の色、大きさなど)を各グ ループでまとめたり、グループごとに相手からの聞き 取りだけでヒナの種類名をあてる、というゲームをしました。見分け方は知っているつもりでも、意外にわかっていない事に気づかされました。

≪アンケート≫

- * 自分の知識のなさにがっかり…。今まで勉強した事を復習して行かなければダメだと思う。
- ■第3回スキルアップ勉強会

【内容:応急処置、搬送】

応急処置では、残念ながら死んでしまって、センターに保存されている鳥たちを用いて包帯の巻き方、添え木の仕方などをグループに分かれて練習しました。また搬送では、身近な道具を使い、安全に、かつ保護鳥獣に出来るだけストレスを与えないようにする方法を学びました。

≪アンケート≫

*応急措置にも、ケガの状態によりしてはいけない 事もあるので、状態を把握する事がいかに大切か 学びました。



スキルアップ勉強会の様子

HELLO!! VOLUNTEER \$

このコーナーでは、ボランティアさんの紹介をしていきます☆

最初に紹介するボランティアさんは加藤わか葉さんです。ボランティア暦はまだ1年目ですが、積極的に色んなことに挑戦しているわか葉さん!今回は同じボランティア仲間、佐藤信敏さんの「人が大好き、つばめのふしぎ」という講演会に参加したときのことをレポートしてもらいました。

☆わか葉さん☆

所属:高校2年生

ボランティア暦:1年目

好きな動物:動物全般、特に文鳥

今後やりたいこと:エサ作り!いつかは長期預かりも!





「人が大好き、つばめのふしぎ」講演会レポート 加藤わか葉

4月5日(土)東京の日野市、多摩平の森ふれあい館でNPO法人バードリサーチ主催の「人が大好き、つばめのふしぎ」講演会がありました。当日は、中央線に遅れがでていたため、私は走って会場まで行くことになってしまいました。

この講演会ではバードリサーチ研究員の方やNHKのディレクターの方、そして、センターのボランティアでもある佐藤信敏さんが講演されました。

日野市や石川県では一般市民も参加してツバメを大切にする活動をしていて、私たちの町でもできたら良いと思いました。

ボルネオ島で越冬しているツバメの話はとても興味深いものでした。向こうでは、電線がツバメの集団ねぐらに利用されることも多くて、映像では太い電線のように見えるほどでした。

NHKの番組「ダーウィンが来た!」で以前放送 されたツバメの撮影の裏話も聞きました。近年増加し たカラスによる被害も多く、撮影していてもヒナや巣 が途中で襲われてしまって撮影がなかなか順調には進まなかったようです。最近では、カラスは通れないくらいのネットを張ったりして被害を防ぐ方法も用いられているようです。

佐藤さんは、暑い日差しの中、飛ぶのが速すぎてなかなかカメラに納まらなかったツバメをやっとのことで撮影に成功して、その映像を私たちにも見せてくれました。

ツバメが水を飲む瞬間や、空中で獲物を獲る瞬間。 はたまた、電線に止まれずに下に落ちそうになってしまうツバメや、水を飲み損ねて頭ごと水に浸かってしまうツバメまで!とても面白い映像でした。他にも、 鳥の種類による羽ばたき方の違いなど、素晴らしい映像を使ってわかりやすく説明してくれました。

私にとってツバメはとても身近な存在ですが、まだまだ知らないことばかりだとあらためて感じました。とても面白くて勉強になる講演会でした。今年も私の家にツバメが来るのが待ち遠しいです。

~おまけ☆編集者紹介~

☆豊島明日花☆(表紙)

所属:大学2年生

ボランティア暦:7年

好きな動物:犬

今後やりたいこと:もっと野生動物を知りたい

編集後コメント:今回協力させて頂いて本当に嬉し

かったです。

☆小松美絵☆(今日の RUNNNER)

所属:大学2年生

ボランティア暦:7年 好きな動物:フクロウ

今後やりたいこと:模索中

編集後コメント: ニホンリスは日々成長をするので、

何度も記事を書き換えました。彼の 成長ぶりを感じて下されば嬉しいで す。それから写真を提供し、色々と

教えてくれた獣医師加藤先生にお礼

を申し上げます。

<u>☆高橋恵☆(ランナー通りの住人たち、</u> 号外 ミズナギドリ)

所属:大学4年生

ボランティア暦:1年

好きな動物:ゴキブリ、コオロギ以外 今後やりたいこと:うちがやりたいこと 編集後コメント:朝はつらいんです

☆山下宏幸☆(山下の突撃レポート)

所属:大学2年生

ボランティア暦:1年

好きな動物:鳥

とくにカワセミ、シジュウカラ

今後やりたいこと:他の傷病鳥獣施設の見学 編集後コメント:会報新メンバー募集中!

☆太向咲恵☆(らんちゃん便り)

所属:大学3年生

ボランティア暦:1年

好きな動物:トビ

今後やりたいこと:会報誌頑張ります!

編集後コメント: らんちゃん便りを 1P書くのは案外

大変でした。次回は最終回となりま すが、これからもらんちゃんをよろ

しくお願いします!

☆本田由美☆(HELLO!! VOLUNTEER☆)

所属:大学4年生

ボランティア暦:1年

好きな動物:ニホンザル、アオサギ 今後やりたいこと:骨格標本作り!

長期預かり!

編集後コメント:ドタバタでした(汗)

☆平沼亜矢子☆(レイアウト)

職業:イラストレーター

ボランティア暦:3年

好きな動物:犬、鳥、ウサギ 今後やりたいこと:現状維持 編集後コメント:無事で何より。



インフォメーション

7月 交流会

●新旧初顔合わせの交流会です。

▽日時 7月13日(土)

▽場所 自然環境保全センター レク チャールーム

~8月 自主研修期間

●平成 20 年度ボランティアの実習期間です。今年受講の方々が自然環境保全センターで 3 日間の自主研修を行います。

▽場所 自然環境保全センター

9月 野生動物救護ボランティア 認定式&交流会

●自主研修を終えた新ボランティア の方々の認定式とこれからの活躍を 励ます交流会です。

▽日時 9月上旬予定▽場所 自然環境保全センター

研修会·勉強会

●救護の第一線で活躍する講師陣がお送りする傷病鳥獣講座です。

▽場所 自然環境保全センター ※詳細が決まり次第お知らせいたし ます。

11月 ジャパンバードフェスティバル (JBF)

●「人と鳥との共存をめざして」をテーマに NPO・行政・企業が一同に会して 開催される一大イベント。

野生動物救護の会は 2 年連続で出展し、2006 年オオバン賞に輝いています。

▽主催 JBF 主催委員会
▽場所 我孫子市手賀沼公園

12月 大掃除&なべ大会

●傷病舎やボランティアルームなど の大掃除を行います。大掃除の後は なべ大会を予定しています。

▽日時 12 月中旬予定 ▽場所 自然環境保全センター

オススメ! 本の紹介

「野生動物の看護学」

●題名の通り、野生動物の看護について詳しく書かれています。

興味のある方は、ぜひ文永堂のホームページをご覧ください。

RUNNER Vol.2

2008年7月1日発行 発行 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

〒259-1306

神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 電話 0463-75-1830

http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/

編集者

表紙絵

一豊島 明日花

今日の RUNNER

-小松 美絵

ランナー通りの住人たち

号外 ミズナギドリ

一高橋 恵

らんちゃん便り

一太向 咲恵

山下の突撃レポート

一山下 宏幸

HELLO!! VOLUNTEER☆

一本田 中美

写真提供

一佐藤 信敏

一加藤 千晴

☆★会員へのお誘い★☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。 私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★ボランティア会員(年会費2,000円)

一般会員:どなたでもご参加いただけます

救護会員:ボランティア講習会を受講し、野生動物救護ボランティアとして登録された方

- ★学生会員:学生の方(年会費1,000円) 〈区分は上記と同じ〉
- ★賛助会員: 当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口5,000円 個人一口3,000円 一口以上

振込先 ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会